

議 事 録

会議名	ゼロカーボン実現戦略会議		回 数	第 2 回
出席者	役 場 環境生活課	課長 山内 博志 環境政策係 係長 高井 久征 主査 檜森 純 主事 阿部 奨太	日 時	令和 4 年 9 月 1 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00
	議 長	北海学園大学 教授 上園 正武	場 所	釧路町役場 庁議室
	審議会 委員	A 氏、B 氏、E 氏、H 氏、I 氏		
	オブザーバー	事業構想大学院大学 織田氏 産業技術総合研究所 歌川氏 NEC ネットエスアイ(株) 相崎氏		
	説明員	委託業者 4 名	方 式	対面会議
内 容				
○説明員 釧路町ゼロカーボン実現戦略計画策定業務 報告				
○国立研究開発法人 産業技術総合研究所 歌川 氏 「釧路町の脱炭素対策と地域発展、担い手」				
質問者：委託業者 釧路町ゼロカーボン実現戦略計画（案）は、環境省のマニュアルに準じて策定している。歌川氏の講演であった、森林による CO2 吸収量を含みずに 2050 ゼロカーボン達成の将来推計について、環境省で推進の動きなどはあるか。				
回答者：産業技術総合研究所 歌川氏 動きがあるということではない。2050 年に向けてより高い目標設定は可能であるという事例の紹介である。				
回答者：委託業者 釧路町ゼロカーボン実現戦略計画（案）の CO2 排出量の将来推計は、北海道地球温暖化対策の推計に準じた推計方法を採用している。また、2050 年に各項目 100%達成は国等が描く将来ビジョンで理想的だが、実現性の点で懸念があると考えている。そこで釧路町として住民向けのアンケートを実施した結果、再エネ・脱炭素に関して釧路町の施策と連携していきたいという回答が 80%以上だった。この 80%の数字を使用し、各項目の達成率 80%を中心とした将来推計を採用している。				
質問者：委員 I 釧路町ゼロカーボン実現戦略計画（案）の CO2 排出量の将来推計については、森林による CO2 吸収量を含んだ 2030・2050 の将来推計としているのか。				

回答者：委託業者

森林による CO2 吸収量を含んだ将来推計を採用している。

質問者：委員 B

釧路町における風力発電（陸上）のポテンシャルが高いのはわかったが、事業性・実現性はどうか。

回答者：委託業者

風力発電について、山や丘の上など事業性が取れる場所はあると考えている。ただし、風景において目立つものであり、周辺エリアの人にとって理解してもらう必要がある。風力発電の導入は、地域の方がご納得した後に導入の流れ。景観を汚しにくい小さな風力発電を設置していく流れもある。

質問者：委員 B

ZEH を推進する釧路町内の住宅メーカーなどはあるのか。

回答者：釧路町役場 山内課長

大手のハウスメーカーであれば ZEH 住宅に関して対応可能だと思うが、釧路町に ZEH を推進するハウスメーカーは恐らくない。地方の工務店での対応は難しいのではないかと考えている。

質問者：委員 E

森林による CO2 吸収について、現状の森林吸収量に対して、将来推計では森林による CO2 吸収量が増えているのはなぜか。

回答者：委託業者

釧路根室地域森林計画の造林面積目標を 100% と仮定し、釧路根室地域全体に占める釧路町の計画対象森林面積割合で按分した結果を反映している。

質問者：委員 E

過去には風力発電（陸上）の低周波音の問題などで周辺住民が嫌がるという声があるなど聞いたことがある。現状ではどうなっているか。

回答者：委託業者

風力発電などの導入に関して、反対の意見がある方もいらっしゃると思う。これからの流れとしてどの種類の再エネがどの場所にポテンシャルがあり、そしてそれに加えて居住地からの距離など条件を加味したポテンシャルマップ（ゾーニング）を作成する。そして、合意形成を進めていく流れだと考えている。合意形成後、風力発電などの再生可能エネルギーの導入を進めていくのが現状の流れとなっていくと考えている。